



高齢者対策の取り組みについて
公営住宅の運営について
街灯設置について

箴島かおる 議員

問 本市の高齢者対策の中でも認知症予防は住民の要望も多く、重要な課題だと考えるが、本市の認知症予防事業についてはどうか。

答 高齢者みずからが健康に関心を持ち、元気で自立した生活を長く続けることができるように認知症予防の普及啓発を行い、予防の重要性を伝えるとともに、地域のサポーターの育成も必要になると考える。行政だけではなく、地域住民、ボランティア、医療・介護従事者、福祉団体などの知恵と活力を取り入れ、本市の認知症予防事業を進めていきたいと思う。

問 大川中学校周辺の通学路が、街灯はついているものの、暗すぎるのではないかと市民からの意見があるが、通学路であることを考慮すれば、街灯設置の整備がされるべきではないか。

答 本市では、住民の安全・安心のために防犯、交通安全上の観点から、24年度より主要な幹線道路にLED防犯街灯を設置するとともに、地域で設置されるLED防犯灯設置に対する補助事業を行っている。学生の安全・安心のためには街灯があるべきだろうと思うので、地域住民の要望として区長などから街灯設置の要望を上げていただくのが一番かと思う。

問 本市の公営住宅等を今風に改装するなどして、子育て世代の本市への移住流入策として活用できないか。



地方創生と基幹産業振興について
ラオスの木材関連産業人材育成事業の
成果について
大川中央商店街の空き店舗活用について
川野栄美子 議員

問 28年度は、地方創生を生かし、基幹産業をどう支援していくのか。

答 インテリア振興センター事業による新商品・新技術開発支援事業や需要開拓産地PR事業等への支援、また、創業スクールや経営革新スクール、家具職人塾の開講への支援等を予定している。

問 地方創生を生かすには、女性の活力が鍵になる。市として総合的な就労相談窓口の設置は。

答 久留米市が同様な窓口を設置しており、調査研究していきたい。

問 大川中央商店街の空き店舗の活用促進は。

答 空き店舗の活用として、大川のインテリア製品等を活用し、中心市街地に人の流れを引き戻し、活性化を図るリノベーションまちづくり推進事業や地域おこし協力隊を活用した事業を計画している。

問 ラオス木材関連産業人材育成

事業とは、どのような事業か。また、なぜ、ラオスなのか。

答 JICAの草の根技術協力事業として採択された事業で、提案自治体は大川市、実施主体は大川商工会議所です。26年から3か年にわたり、ラオスの製材業や家具製造業の技術者の育成を目的とした国際貢献事業で、24年に大川木材事業協同組合とラオス木材組合との間で交流を図る覚書が交わされた経緯を踏まえたものです。

問 人材育成事業の成果は。

答 製材関係技術者や家具関係技術者の技術向上ができたことと、ラオスの現地工場の作業環境の改善が図られたことなどです。

問 事業は継続するのか。

答 業界と協働し、事業の継続、拡大ができるように努める。

問 文化の繋がりも大切と思うが、大事と思う。今後検討したい。



大川市行政の総合戦略について

遠藤 博昭 議員

問 大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、最優先とする政策は何か。

答 総合戦略の内容は、「安定した雇用を創出する。」「新しい人の流れをつくる。」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる。」「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する。」「この4つの基本目標を柱とし、8つの施策の基本的方向及び28の施策を盛り込んでいる。その上で、先行して国からの地方創生加速化交付金を活用して行う施策としては、「筑後川昇開橋展望公園観光拠点の推進」及び「マイスターツーリズムの推進」です。

問 地域おこし協力隊の活動とはどのようなものか。

答 ボランティアガイドによるまち歩き、大川組子の制作体験、あまおう、い草、酒、酢、ノリなどのマイスター職人のわざと観光を結びつけた魅力ある体験メニューを28年度に開発していきたいと思っています。

答 地域おこし協力隊には、市外の方が、本市に来て大川市民とな



筑後川昇開橋展望公園周辺の活用について
消防水利の現状及び防火活動、
消防団の現状と今後は

馬淵 清博 議員

問 有明海沿岸道路筑後川橋梁の橋脚設置に伴い、一部撤去した導流堤の復元展示が、筑後川昇開橋展望公園近くに設置されるとの事だが、今後の公園周辺の利活用は。

答 国土交通省は、デレーケ導流堤の展示方法について、今のところ断面全体案、断面半分案、断面構造の写真やグラフィックを壁面に設置という3案を示し、いずれかの案で結論を出す予定である。さらに、活用や維持管理を行う組織体制や導流堤のガイド内容など、新たな勉強会の開催を予定しているとのことである。

問 観光面では、昇開橋は大川で最大の観光施設であり、ここに導流堤の一部が設置されると、観光施設としての魅力が高まること

が期待される。また、昇開橋付近に観光拠点施設を設置し、訪れた方々に、インテリア製品、飲食及び物

産などの情報を提供することで、滞在時間の延長や大川製品の消費拡大につなげていきたい。

問 消防水利の現状と、冬場の水位低下時の対応処置は。

答 現在、消防水利として消火栓、防火水槽、指定水利等を常時使用できるように点検補修を行っている。また、クリークについては年2か所程、消火活動上重要な所を浚せつしている。

問 消防団の団員減少問題と、今後の対応は。

答 現在、本市では定数339名で326名の団員がいる。全国的にみても人口減少、少子化などの社会情勢の変化により、団員数は減少傾向にある。本市でも今後、団員の減少が考えられるので、地域防災力の強化を図るために機能別消防団制度の導入など、検討、研究していく必要があると考える。